

行動計画							点検・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	令和5年度の取組	達成時期	実績・課題	見直方針	
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成								
1-(1) 情報活用能力の育成								
1-(1)-① カリキュラム・マネジメントによる体系的な育成	カリキュラム・マネジメントを充実させ、発達の段階に応じて、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく。	A 市立学校が、情報活用能力に関する意識調査の結果をもとに、情報活用能力育成の年間指導計画を作成。	教育指導課、教育センター	モデルカリキュラムの内容を適宜見直し、各学校に周知	継続	年内	生成AIの位置付けも含め、現在見直し中である。	
		B 市立学校が、教育用クラウドを日常的に活用(常時家庭での活用も含む)できる情報活用能力育成の年間指導計画を作成。	教育指導課、教育センター	モデルカリキュラムの内容を適宜見直し、各学校に周知	継続	年内	今年度の取組を基に年間指導計画の自校化を教育課程訪問で指導している	
		C みやぎ情報活用ノートのデジタル化と、StuDX Style等を参考にした授業事例の普及。	教育指導課、教育センター	デジタル化5事例程度(みやぎ情報活用ノート)と、StuDX Styleの事例を、情報発信し学習eポータル等に登録	継続	年度内	教育センターで作成中。ロイロノートを活用した事例で進めている。	
		D ICTとこれまでの実践の最適な組合せ事例の研究を行い、事例を発信。	教育センター	ICTとこれまでの実践の組合せ事例を発信する。	新規	年度内	授業づくり訪問で得た指導案から選出	
1-(1)-② プログラミング教育の推進	校種間の連携・接続を考慮して、学校で系統的にプログラミング教育を実施する。	A 市立学校で、系統的(教科等横断的)にプログラミング教育を実施。	教育指導課、教育センター	系統的(教科等横断的)に実践できるプログラミング教育の事例(小中学校全学年分)を収集する。	継続	年度内	プログラミング部会で実践に取り組み、事例をまとめている。	
		B 市立小中学校において、プログラミング教育やSTEAM教育を全学年及び全教科等で実施。	教育指導課、教育センター	プログラミング教育やSTEAM教育の全学年で実践できる事例(プログラミング検定等)を紹介する。	継続	年度内	プログラミング検定について試行予定	
		C 毎年、プログラミング教育やSTEAM教育の事例(プログラミング検定等)を作成し積極的に発信。	教育指導課、教育センター					
1-(1)-③ 学校・家庭・地域における情報モラル教育・情報セキュリティ教育の推進	児童生徒の情報モラルの実態を把握し、家庭等と連携しながら情報モラル教育や情報セキュリティ教育を進める。	A 児童生徒の情報モラルの実態を把握し、学校と家庭の両方で効果的に取り組める情報モラル教材等を活用して、すべての学校で実施する。	教育指導課、教育センター	実態把握に基づいた各校の情報モラルの教育計画を作成する(情報活用能力育成の年間指導計画)。	継続	夏頃	今年度の取組を基に年間指導計画の自校化を教育課程訪問で指導している	
		B 高度に発達した情報化社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けるための取組を研究し成果を普及する。	教育指導課、教育センター	児童生徒の情報モラル(デジタル社会に積極的に参画する態度を含む)育成のための実践事例を紹介する。	継続	年度内	生成AIの実践事例も含め、作成中である。	
		C 市立学校で、情報セキュリティ教育の実施をする。	教育指導課、教育センター	情報セキュリティ教育のための実践事例を紹介する。	継続	年度内	情報セキュリティ研修を5月に実施	

行動計画							点検・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	令和5年度の取組	達成時期	実績・課題	見直方針	
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成								
1-(2) 指導・学習のためのICT活用								
1-(2)-① 個別最適な学びの推進(指導の個別化、学習の個性化)	学習改善に役立てていくため、ソフトウェア等の利活用等を通じて個別最適な学びを推進する。	A 教育用クラウドやデジタルドリルなどの各種ソフトウェア等、せんだい電子図書館の利活用の普及をする。	教育指導課、教育センター	教育用クラウドやデジタルドリルなどの各種ソフトウェア等、せんだい電子図書館の利活用事例をそれぞれ発信する。	継続	夏頃	デジタルドリルの活用状況を確認している	
		B キャリア・パスポートの電子化(基礎資料の電子化も含む)を検討する。	学びの連携推進室	キャリア・パスポートの運用の事例収集(基礎資料の電子化も含む)と改善点の検討を行う。	継続	夏頃	国や県の動向も注視しつつ検討を進めている	
		C 個別最適な学びを推進するための研究する。	教育センター	個別最適な学びの授業事例(他自治体の事例も含む)を発信する。	新規	年度内	授業づくり訪問から選出	
1-(2)-② 協働的な学びの推進	児童生徒同士の対話・考えの共有・協力を通じた学びなど、多様な価値を認め合い、新たな価値を創造する協働的な学びを推進する。	A 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に関する市内学校の取組事例を収集し発信する。	教育指導課、教育センター	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の理解を深める研修を行い、併せて市内学校の取組事例を収集し発信する。	継続	夏頃(研修等)事例収集発信(年度内)	校長研修と担当者研修で、テーマの1つとして実施した。事例は授業づくり訪問から選出	
1-(2)-③ 探究的な学びの推進	地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、実社会での問題発見や課題の解決等に当たり、教科等横断的な視点に立った探究的な学びを進める。	A 教科等横断的な視点に立った探究的な学び(学習支援ソフトウェア等の利活用を含む)に関する市内学校の取組事例を収集し発信する。	教育指導課、教育センター	教科等横断的な視点に立った探究的な学び(学習支援ソフトウェア等の利活用を含む)に関する取組事例を収集する。	継続	年度内	リーディングDXスクール事業の実績を横展開。事例は授業づくり訪問から選出	
		B 単元の工夫、STEAMライブラリー等の利活用、副教材等のデジタルコンテンツ化の研究成果の普及をする。	教育センター	せんだい教材映像アーカイブやSTEAMライブラリー等のデジタルコンテンツの利活用事例を収集・発信する。	新規	年度内	サポートサイトにリンク	
1-(2)-④ デジタル教科書・副読本の活用	学習者用・指導者用デジタル教科書について、効果的な利活用の情報を収集し発信するとともに、各種研修に活用していく。	A 学習者用・指導者用デジタル教科書について、効果的な利活用の情報を収集し発信をする。	教育指導課、教育センター	学習者用・指導者用デジタル教科書について、各校の取組事例を収集し発信する。	継続	年度内	デジタル教科書の活用についてアンケートを実施	
		B 紙とデジタル教科書、副読本のデジタル化に関しての検証を行い、効果的な利用に関する各種研修を行う。	教育指導課、教育センター	紙とデジタル教科書、副読本のデジタル化に関しての効果的な利用の事例を収集する。	継続	年度内		
1-(2)-⑤ 先端技術の活用	教員を支え教育の質を高めるツールとしての先端技術を効果的に活用していく。	A 防災や安全教育、自然や文化財等の学習教材のVR化を推進し、児童生徒の学びの充実を図る。	生涯学習課、文化財課 他	VR教材を作成し、実践校の授業事例を収集する。	継続	年度内	文化財課で仙台城のVR教材を作成し、出前授業で活用	
		B 先端技術によるデータの整理や分析の研究成果を普及する。	教育指導課	-	-	-	-	
1-(2)-⑥ ICT活用における健康面への配慮	文部科学省のガイドブック等を参照しつつ、児童生徒の健康について、関係機関と適宜連携しながら実態を把握し、留意事項の周知・啓発を行います。	A ICT機器の利用と健康に関する実態を把握し、留意事項の周知・啓発を行う。	健康教育課	児童生徒の健康面に配慮した上で、児童生徒が個々の必要に応じて端末を使えるように周知する。	継続	年度内	文科省のガイドラインについて再度周知する	

行動計画							点検・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	令和5年度の実施	達成時期	実績・課題	見直方針	
基本方針1 児童生徒が、ICTを適切に使いこなし、生涯学び続けるための資質・能力の育成								
1-(3) 学びを保障するためのICTの活用								
1-(3)-① 災害時等に学びを継続するためのICT活用	災害等の学校教育への影響が避けられない状況にあっても、児童生徒の学びを継続できるように、普段から対面授業とオンライン学習を効果的に組み合わせた学習等を行うための研究を進める。	A 一定程度オンライン学習を組み合わせた授業を展開できるような事例を発信する。	教育センター	平常時から端末を持ち帰り、学習改善に役立てている学校の事例(指導計画)を周知・実践する。	継続	年度内	現在の端末持ち帰りの状況は資料3参照。	
		B 各学校において、普段の授業から一定程度オンライン学習を展開できる年間指導計画の作成及び実施をする。	教育指導課					
1-(3)-② 多様なニーズに対応するためのICT活用	オンライン学習教材等を活用した不登校児童生徒等への学習支援等に取り組む。また、外国籍など日本語を母語としない児童生徒等について、ICTを活用することにより、一層の教育の充実に向けた取組を進める。	A 市立学校に、不登校児童生徒等へICTを活用した学習支援等の事例を発信する。	教育相談課	各学校が、多様なニーズ(不登校、日本語指導を要すること、あるいは特定分野に特異な才能を有することなどにより特別な支援が必要な児童生徒)等に対するきめ細かな支援のために、ICTを活用できるように取組を検討する。	継続	年度内	いじめSNS相談サイトのまなびポケットのブックマークへ登録 こころの天気実証等	
		B 市立学校の日本語指導が必要な(外国籍など日本語を母語としない)児童生徒等について、ICTを活用した教育活動を普及する。	教育指導課					
1-(3)-③ 特別支援教育におけるICT活用	障害に起因する学習上または生活上の困難さを有する児童生徒が、1人1台端末を等しく活用するために特別支援学校や特別支援学級で入出力支援機器の活用等の取組を進める。	A 特別支援学校や特別支援学級での入出力支援機器の活用事例や、有用なアプリケーションの普及をする。	特別支援教育課	各学校が、病気療養や障害等の個別のニーズに対するきめ細かな支援のために、ICTを活用できるように取組を周知する。	継続	年度内	端末の多様な活用について、ICT支援員を中心に支援を進めている	
		B 院内学級の設置されていない病院に長期入院する市立学校に在籍する児童生徒に対しても学習の機会を保障する。	特別支援教育課					
							学校管理のLTE機を貸与する事例が増えてきている現状	

行動計画							点検・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	令和5年度の取組	達成時期	実績・課題	見直方針	
基本方針2 教員のICT活用指導力を高めるための支援体制の充実								
2-(1) 教員に求められるICT活用指導力等の向上								
2-(1)-① 教員の資質の向上	ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を充実し、教員のICT活用指導力を育成する。また、管理職への研修や、校内研修でリーダー的な役割を担うミドルリーダーへの養成的な研修を行い、情報活用能力の育成に関する内容を含めた校内研修の充実を図る取組を進める。	A. 教員のICT活用指導力チェックリスト等による現状把握と分析のもと、研修の計画と成果について公開する。	教育指導課、教育センター	教員のICT活用指導力チェックリストの結果に基づいて研修を企画する。	新規	5月	来年度のセンター研修を計画する際に参考にしていく	
		B. ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を充実する。	教育指導課、教育センター	各教科において、ICT活用を前提とした授業づくりやプログラミング教育等の研修を行う。	新規	年度内	教育センターで実施	
		C. 教員の負担軽減を目的として、オンラインやオンデマンド形式での研修も開催する。	教育指導課、教育センター 他	教員の負担軽減を目的とした、オンラインやオンデマンド形式での研修を行う。	継続	年度内	完全ペーパーレス研修を実施している。	
		D. 毎年管理職への研修を実施する。	教育指導課、教育センター	学校教育情報化に関連する管理職研修を実施する。	継続	年度内	6月19日に校長研修を実施	
		E. 校内研修でリーダー的な役割を担うミドルリーダーへの養成的な研修を毎年行う。	教育指導課、教育センター	ミドルリーダーへの養成的な研修を実施する。	新規	年度内	担当者研修会を10月までに2回終了。	
		F. 情報活用能力の育成に関する内容を含めた校内研修の充実を図る取組を進める。	教育指導課、教育センター	校内研修の充実を図る取組の事例を収集する。	新規	年度内		
		G. 支援を必要とする学校への研修や授業づくりに関する訪問支援を実施する。	教育指導課、教育センター	支援を必要とする学校への研修や授業づくりに関する訪問支援を実施する。	新規	年度内		
2-(1)-② 人材の確保等	本市で教育実習生を受け入れる際も積極的にICTを活用する等、広く教員のICT活用指導力向上に資するよう取り組む。	A. 教育実習生等にICTを活用した授業や活動を積極的に行う。	教職員課	教育実習生等に、ICTを活用した授業や活動を積極的に実施する。	継続	夏頃	教職員課が全実習生の臨時アカウントを発行・配付	
		B. 高校の情報科への対応のため、教員研修を充実する。	教育センター、高校教育課	高校の情報科への対応のため、教員研修を充実する。	新規	年度内	研修の実施について確認	
2-(1)-③ ICT支援員などの人的支援	ICT支援員について、効果的な利活用方法を学校に周知していく。また、学校向けヘルプデスクを運営し、教員の負担軽減を図る。	A. 全市立学校に配置されたICT支援員について、効果的な利活用方法を学校に周知する。	教育指導課	ICT支援員の具体的な支援の内容がわかる学校支援事例集を作成し発信する。	継続	夏頃	事例集を11月に発出	
		B. 教員の負担軽減のため、GIGAスクール運営支援センターと同等の機能を有する学校向けヘルプデスク(GIGAスクール端末運用業務ヘルプデスク)を運営する。	教育指導課	GIGAスクール端末運用業務ヘルプデスクの安定的な運営を行う。	継続	夏頃		

行動計画							点検・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	令和5年度の取組	達成時期	実績・課題	見直方針	
基本方針3 ICTを活用するための環境整備								
3-(1) 安全・安心なICT環境の構築								
3-(1)-① 1人1台端末等活用のための環境整備	全市立学校に整備した児童生徒用及び教員用1人1台端末について、故障分の補充等により維持を続けていく。また、学習者用・指導者用デジタル教科書等について効果検証を行いながら、今後の整備の在り方を検討する。	A. 回線がひっ迫することのないよう、各学校での回線利用状況を確認しながら、必要に応じて通信環境の増強等を検討する。	教育指導課	各学校の回線利用状況等の確認を実施する。 一部学校で体育館のWi-Fi環境を整備する。	継続	年内	11月に体育館ルーターを整備。配線作業のフォローも	
		B. 児童生徒用及び教員用1人1台端末について、安定的な稼働に向けた、故障分の補充等や更新を実施する。	教育指導課	児童生徒用及び教員用1人1台端末の破損状況を調査する。 児童生徒や教員の増減による端末移設を実施する。	継続	夏頃	破損状況は調査済みで2.85%	
		C. コンピュータ室としてのニーズが終了した後の活用は、各校の事情に合わせて検討する。	教育指導課	コンピュータ室としてのニーズが終了した後の活用方法の一つとして、情報活用能力の育成に資する新たなスペース等の研究を行う。	継続	年度内	STEAM Lab実証研究	
		D. 実証事業や研究の成果及び、整備等の効果検証をしつつ、より効果的な活用に向けた整備の在り方等を検討する。	教育指導課	指導者・学習者用デジタル教科書等の効果検証をしつつ、次年度以降の整備の在り方等を検討する。	継続	夏頃	指導者用デジタル教科書について活用状況等を調査	
3-(1)-② デジタル教材等の整備	MEXCBTやデジタル化された副読本の整備を進めるとともに、先端技術の活用に関する研究を進める。	A. デジタル化された副読本の整備を進めるとともに、先端技術の活用に関する研究を行う。	教育指導課、教育センター	仙台版防災教育副読本の効果的な利用の事例を収集する。	継続	夏頃	悉皆の仙台版防災研修を実施	
3-(1)-③ 教育データの利活用、教育DXの推進	教育現場における学習者や教育者の日々の学習や実践の改善に資する教育データ利活用についての研究を進める。また、学習eポータルやMEXCBTによるCBTで取得できるデータの利活用、キャリアパスポートの利活用や電子化に関する検討も併せて進める。	A. 教育現場における学習者や教育者の日々の学習や実践の改善に資する教育データ利活用(指導技術の可視化等を含む)についての研究を行う。	教育指導課、教育センター	学習履歴(スタディ・ログ)をはじめとした様々な教育データを活用する研究を行う。	新規	年度内	校務支援システムにダッシュボード機能を実装するよう検討を進めている。	
3-(1)-④ 個人情報の保護等	情報管理指針を毎年改訂し各学校に周知するとともに、学校へセキュリティに関する支援をしていく	A. 各学校へセキュリティに関する最新の情報提供や研修等の支援を行う。	教育指導課	情報管理指針の改訂とセキュリティ研修を行う。	継続	年度内	情報セキュリティ研修を年度の早い段階(5月)に実施した。	
3-(1)-⑤ 著作権への対応	授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)より許諾を受け、教員が他者の著作物を円滑に利用できるようにしていく。	A. 著作権に関する最新の情報提供や研修等の支援を行う。	教育指導課	市立学校へ著作権に関する情報提供等を実施する。	継続	年度内		

行動計画							点検・評価	
項目	概要	令和9年度までの目標	担当課	令和5年度の取組	達成時期	実績・課題	見直方針	
基本方針4 学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築								
4-(1) 学校の情報化の推進								
4-(1)-① 情報化による校務効率化	校務支援システムの活用による働き方改革を推進するため、適宜システム改修を行う。学校と家庭との連絡機能の検討や、学校評価アンケート等のアンケートのデジタル化等による教員の事務負担軽減を図る。	A. 働き方改革を推進するため、校務支援システム等の利活用を検討する。	教育指導課	学校と家庭との連絡機能やアンケートのデジタル化等の効果的な利活用の事例を収集する。	継続	年度内	保護者連絡ツールの統一化について周知し、各学校で年度内の導入や移行を進めている。	
基本方針4 学校情報化の推進とICT活用の推進体制構築								
4-(2) 教育の情報化に関する推進体制								
4-(2)-① 学習の継続的な支援等のための体制の整備	教育の情報化を推進するため、教育委員会は本計画をもとに、全市的な環境整備等に取り組む。また、学校はそれぞれの状況に応じて、本計画を学校経営に取り入れ、各教科等での学習活動に取り組む。	A. 学校の情報化の推進に向け、仙台市GIGAスクール推進協議会の助言を受けながら、教育の情報化における取組等について検討し、各学校にその取組等を周知する。 B. 本計画を学校経営に取り入れ、各教科等での学習活動で実施する。	教育指導課、教育センター	教育の情報化における取組等について検討し、各学校にその取組等を周知する。	継続	年度内	学校情報化部会の取組について各学校に周知	
4-(2)-② 調査研究及び情報発信	端末利活用の取組事例等に関する情報を収集し、その事例等について情報発信し、各学校が参考にできるようにする。	A. 先進的な研究や国の事業へ積極的に参加し、仙台GIGAスクールサポートサイト内において、その成果や事例等について情報発信し、各学校が参考にできるようにする。	教育指導課、教育センター	仙台GIGAスクールサポートサイト内において、先進的な研究や国の事業の成果や効果的な事例等について全校に情報発信する。	継続	年度内	サポートサイトをリニューアルした。	
4-(2)-③ 地域、大学や民間事業者等との連携	市内教育施設との連携や地域の大学や民間事業者など、地域の力を学校の中に取り込み、学校をサポートする体制を検討・実施していく。	A. 市内教育施設との連携や地域の大学や民間事業者など、地域の力を学校の中に取り込み、学校をサポートする体制を検討・実施する。	教育指導課、教育センター	市内教育施設との連携や学校をサポートする体制の事例を収集する。	継続	年度内		
4-(2)-④ 市民の理解と関心を高める取組	仙台GIGAスクールサポートサイト等の更新を図りながら、端末利活用に向けた種々の情報提供を行う。	A. 仙台GIGAスクールサポートサイトや、教育センターのWebページで、利活用に向けた情報提供をする。 B. 仙台市教育委員会が主催や後援する学校教育の情報化等に関する理解と関心を深めるための市民公開講座等を開催する。	教育指導課、教育センター	保護者等のニーズを定期的に収集し、仙台GIGAスクールサポートサイト等を更新する。	継続	年度内	サポートサイトをリニューアルした。	
			教育指導課、教育センター	仙台市教育委員会が主催や後援する市民公開講座等を1つ以上開催する。	新規	年度内	生涯学習課や市民センターと相談	